

# 産学連携実績紹介フォーム

## 1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科 等)	山口大学工学部知能情報工学科	実施時期	平成25年7月、26年1月
対象学年・学期・人数	学部4年生、大学院修士1年生10名、及び企業の新人10名、計20名		
講座名	産学連携による実践的IT人材育成講座		
連携企業・団体	一般社団法人 山口県情報産業協会		
支援・連携の種類	教材・事例の提供、講師派遣など。		
講座の概要・特徴	山口県情報産業協会と山口大学は互いに助け合うという精神のもとに連携して独自の実践的IT人材育成研修の講座を開講し、これが地域IT産業の活性化の一助になることを目指す。本講座の特徴は、大学からの受講生は学部生と大学院生で、企業からの受講生は入社3年以内の新人を対象とし、講師も大学講師と企業講師という形態をとっている点にある。大学生と企業の新人を一緒に教育することで、互いに良い意味で刺激し合う効果も期待できる。		
産学連携検討の背景	質の高いIT人材の育成・確保は、我が国のIT産業のみならずあらゆる産業の競争力強化を図る上での最重要課題となっている。このため国家的プロジェクトとして産学連携による実践力教育が推進され、全国展開の段階へ進行しており、この流れに沿って山口県における産学連携によるIT人材育成の検討を行った。		
連携の狙い、目的・目標	企業と大学がそれぞれ有するリソースを有効活用し、継続性のある取組みとする。また、大学生と企業の新人を対象とすることから、ITの基礎的レベルの習得を目標とした。		
連携にあたっての課題・懸念	継続することが大事であるので、無理のないように配慮している。そのため、現状では特段の懸念材料はない。		
講座の位置づけ 既存講座との関係	既存の講座との相違点は、上述したように大学生と企業の新人を一緒に教育している点である。既存講座で用いたロジシンの教材は大学1年生用であるため、これの難易度を高めたものを演習に用いている。		
履修前提条件	初歩的なITに関する知識を前提としている。情報系の大学生であれば常識のレベルである。		
授業準備と実施の体制	・2日間の講座で、1日半をかけてロジカルシンキングを大学教員がTA2名とともに担当し、2日目の午後を企業講師3名がそれぞれ通信ネットワーク概論、ISMS概論、データベース概論を各80分間で担当した。ロジカルシンキングは、1日目の午前中に座学でロジシンの概要を学び、午後と2日目の午前にチーム演習を行った。 ・本講座は年2回開講し、25年度は7月29日、30日に、2回目は26年1月9日、10日で、9時から17時まで行った。受講生に関しては、大学生、大学院生が5名、企業新人が5名で計10名を1回の講座で教育し、これを2回行うことで年に20名(大学側10名、企業側10名)を教育する。		
成績評価の方法	成績は特に評価しない。		

	単元と時間配分（1コマ=90分で実施）	演習・実習	実施担当・役割分担
講座の構成(シラバス)	ロジカルシンキングの概要	座学	大学教員
	Why型ロジックツリー	演習・実習	大学教員
	How型ロジックツリー	演習・実習	大学教員
	SWOT分析とピラミッド構造による表現	演習・実習	大学教員
	Why型ロジックツリーとHow型ロジックツリーの総合演習	演習・実習	大学教員
	ピラミッド構造の総合演習	演習・実習	大学教員
	発表とまとめ	演習・実習	大学教員
	通信ネットワーク概論	座学	NTT西日本山口支店
	ISMS概論	座学	株式会社エイム
	データベース概論	座学	宇部情報システム

講座ならびに演習・実習の具体的な進め方	教室内での座学や演習であるため、液晶プロジェクタを用いた他は、特別な装置は不要である。
---------------------	---

## 2. 講座実施後の情報

受講者の声(受講目的、修得目標)	・自分自身、何を話しているのか分からなくなるときがあり、ロジカルシンキングは不足しているスキルであると感じた。今後は、実務での問題を発見し、改善する所はないか、常に考えた行動を心がけたい。
受講者の感想(本講座で得られたもの)	・講義だけでなく、チームで問題解決を行う演習があり、非常に為になりました。 ・新人研修では学ぶことのない事、入社前に見につけておくべき事を今回学ぶことができて良かった。 ・企業の方と協力してチーム演習を行うという、普段ではなかなかできない体験ができ、有意義でした。 ・ロジカルシンキングについては学生のときも、入社後の研修でも学んだことがなかったので、今回の研修に参加できて良かったと思います。 ・演習が行えたのは講義内容を理解するにあたってよかったです。
先生の評価	学生と企業の新人を混ぜてチームを構成し、演習を行わせることは、学生にとって良い刺激であった。また新人もロジカルシンキングのような基本的なスキルを学ぶチャンスがあって助かったという感想もあり、本講座の目的は達成したと考える。
企業・団体による評価	企業にとっては人材育成のコスト削減という大きなメリットがあり、継続していきたい。
今後の展望(継続に向けた課題)	課題は、継続を如何に保つかである。現在TA2名のサポートで、チーム内の議論の停滞を回避させ、TAはファシリテーターとしての機能を担っている。このため質の良いTAを確保することが重要であり、当面は担当する大学教員の研究室の大学院生を採用し、TAの経験に基づくノウハウを継承するようにしている。

## 3. 支援企業・団体からの情報

提供教材・コンテンツ情報	通信ネットワーク概論、ISMS概論、データベース概論、いずれも社外用 ロジカルシンキングは、教科書として「大学生のためのロジカルシンキング」を採用		
提供元	培風館(JB企画)	1890円	講座の受講料 5000円(社会人のみ)
支援の目的・目標	地域における産学連携として、助け合いの精神で、自社から提供できる人的リソース(企業講師)を派遣し、共栄を目指す。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	80分の授業を担当		
講座実施における企業・団体の役割	企業講師の人選、及び企業からの参加者募集		
企業・団体からの推薦コメント	本講座は、実践的な内容であり、地域企業の人材育成に大きく貢献するため続けていきたい。		